

4 出土遺物

遺物は平安時代の土師器碗、須恵器、灰釉陶器、土製・石製の紡錘車、鉄釘、鉄滓などが出土しました。また、少量ですが、古墳時代・飛鳥時代から奈良時代の遺物も出土しています。本遺跡からは石製と土製の紡錘車が1点ずつ出土しています。石製は包含層からの出土であり、土製は柱穴列の北側の溝から出土しています。紡錘車はいずれも台形状で上面が幅広い作りとなっており、紡錘車は土製の方が石製より大型です。



1. 土師器甕口縁部（古墳時代） 2. 土師器碗（平安時代） 3. 灰釉陶器碗（平安時代）
4. 須恵器杯蓋（平安時代） 5. 石製紡錘車（平安時代か？） 6. 土製紡錘車（平安時代）
7. 鉄釘（平安時代） 8. 鉄滓（平安時代）

六日町藤塚遺跡出土遺物（縮尺 1/2）

5 古墳時代の調査

隣接する過去の調査区では、下層から古墳時代の遺構・遺物も見つかっています。令和4年度に調査した南西側の調査区では礫層面の上で、古墳時代の土器集積遺構が3基見つかっており、高杯・小型壺などの土器に伴い、石製模造品・白玉などが出土しています。これらは祭祀に伴う遺物と考えられています。また、令和6年度に調査した北西側の調査区では溝から古墳時代後期の甕や杯がまとまって出土しています。この溝は今回の調査区に続いています。

今回の調査区でも、古代の遺構の底から古墳時代の土器集積が見つかり、今後、古墳時代の調査についても大きな成果が期待できます。



古墳時代の土器集積（南西から）



No

南魚沼市六日町藤塚遺跡第11次調査現地説明会資料

令和7年11月15日（土）

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 遺跡の概要

六日町藤塚遺跡は国道17号六日町バイパス及び国道253号八箇峠道路建設事業に伴い、発掘調査を実施しています。遺跡は、魚沼丘陵の東側、庄之又川によって形成された標高182mの扇状地上に立地しています。六日町藤塚遺跡の発掘調査は平成29年から始まり、今回が第11次調査になります。これまでの調査では、7世紀後半の飛鳥時代から営まれた集落を確認しています。また、古墳時代の遺跡も見つかっており、古墳時代中期後半から後期前半（5世紀後半から6世紀前半）の集落と祭祀あるいは廃棄に伴う土器集積遺構を確認しています。



調査区全景（上空北東から）

令和7年度は下図の赤色範囲、273㎡（当初）の調査を実施しています。遺構面は古墳時代後期（6世紀前半）・飛鳥時代から奈良時代（7世紀後半から8世紀初頭）・平安時代（9世紀後半）があり、今回の調査区では平安時代の遺構が主に見つかっています。



六日町藤塚遺跡の発掘調査位置

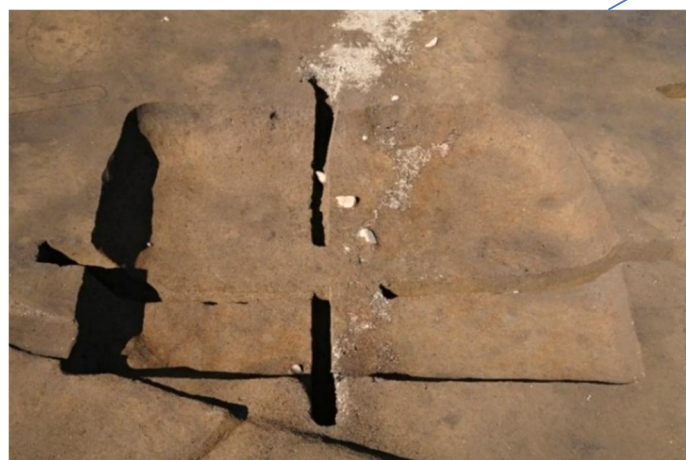
2 平安時代の調査

柱穴を中心とした土坑、竪穴状遺構、柱穴列など、平安時代（9世紀後半）の遺構を多数確認しました。

主要な遺構として調査区の中央からやや北よりに位置する竪穴状遺構があります。遺構の形状は隅が丸い長方形で、大きさは縦1.8m×横2.4mです。時期が分かる明確な遺物は出土しませんでした。が、検出した層位や周辺の遺構の配置から平安時代以降のものと考えられます。

また、調査区の中央南側でも南西側の調査区（令和4年度）から続く竪穴状遺構を確認しました。覆土中には、炭化物や焼土が多く含まれ、平安時代の土師器碗、鉄滓が出土していることから平安時代の遺構と考えられます。大きさは縦2.0m ×横2.2mです。炭化物や焼土が多量に含まれることや鉄滓の出土、北側の溝から出土した紡錘車の存在などから鍛冶場や糸の生産を行った工房などの可能性が考えられます。

調査区の中央付近で確認した柱穴列は東西に方位を合わせ造られており、7基の柱穴で構成されます。全体の大きさは5.3m、柱穴の大きさは0.5～0.6m、深さ0.4～0.5m、柱間隔は0.8～0.9mです。また、柱穴列の北側には長さ7m×幅0.6～0.7m、深さ0.18mの溝が存在します。平安時代の土器が出土していることから平安時代に造られたと推定できます。柱間隔が狭く、規模の大きな柱が1列に並ぶことから、溝を伴う塀などの特殊な遺構の可能性があります。内部には竪穴状遺構があることから、この遺構を覆い隠す意図があったとも考えられます。



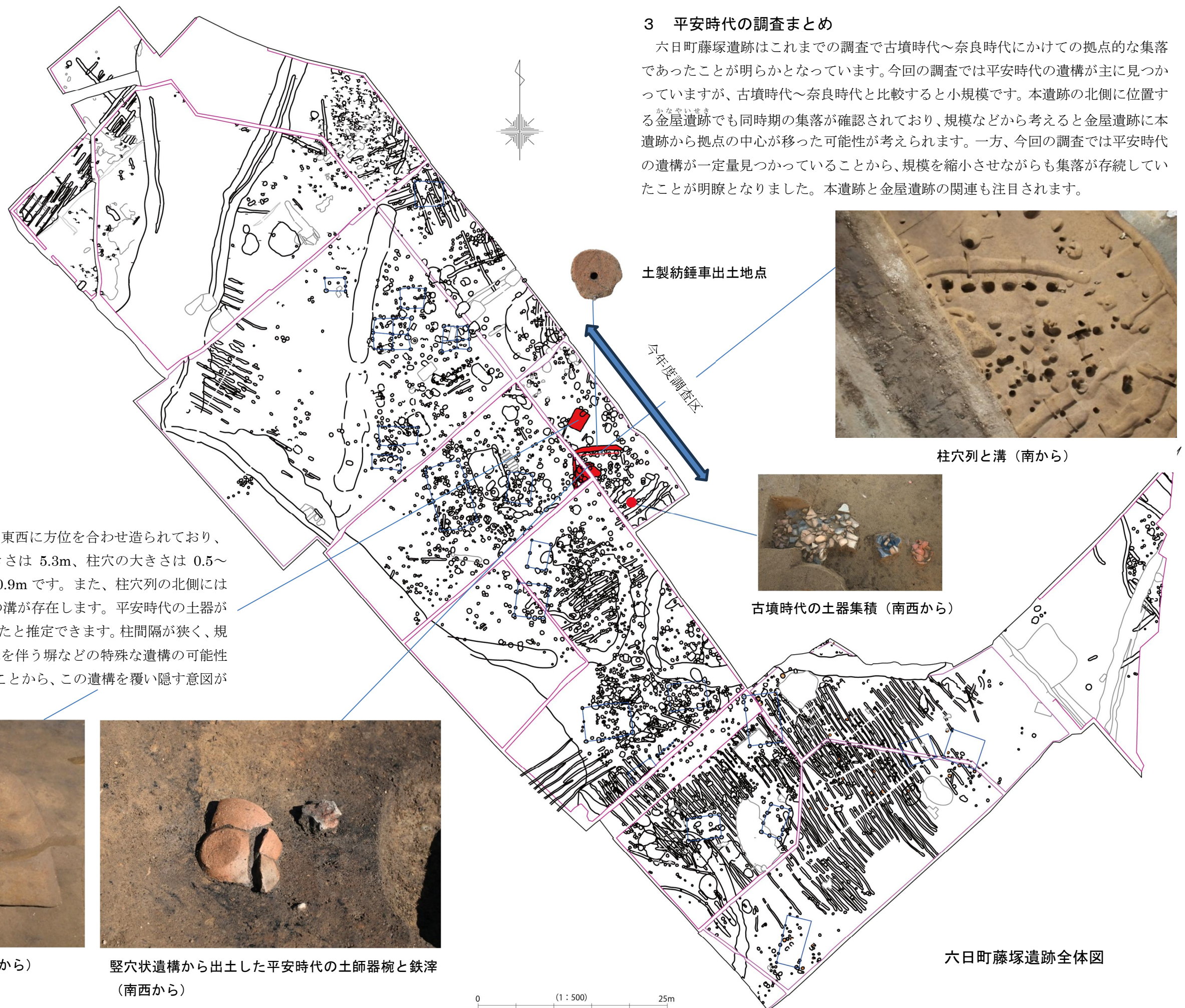
平安時代以降の竪穴状遺構（南東から）



竪穴状遺構から出土した平安時代の土師器碗と鉄滓（南西から）

3 平安時代の調査まとめ

六日町藤塚遺跡はこれまでの調査で古墳時代～奈良時代にかけての拠点的な集落であったことが明らかとなっています。今回の調査では平安時代の遺構が主に見つっていますが、古墳時代～奈良時代と比較すると小規模です。本遺跡の北側に位置する金屋遺跡でも同時期の集落が確認されており、規模などから考えると金屋遺跡に本遺跡から拠点の中心が移った可能性が考えられます。一方、今回の調査では平安時代の遺構が一定量見つかったことから、規模を縮小させながらも集落が存続していたことが明瞭となりました。本遺跡と金屋遺跡の関連も注目されます。



土製紡錘車出土地点

今年度調査区

柱穴列と溝（南から）

古墳時代の土器集積（南西から）

六日町藤塚遺跡全体図